

先生との思い出

コカ・コーラウエストジャパン 柴田 暢 雄 (69期)

私の恩師である高田駒次郎先生の召天10周年記念誌発刊にあたり、その一頁に私の先生との思い出を掲載していただけることを大変嬉しく思っております。

昭和42年春、高田先生が西南学院大学商学部講師としてまた、硬式野球部の部長として突然私達の前に現れ、「俺が硬式野球部の部長ぜ！」と言われたのを昨日のように思い出します。当時、私は大学2年生であったろうと思いますが、まだ赴任されたばかりで私達の上級生（3年、4年）には随分気を使ってあったようですが、我々には例の博多弁丸出しで気さくに話していただいたように思います。

昭和42年の夏のインカレで我チームは、高田先生の下で当時の八幡大学（今の九州国際大学）に準決勝で1－0で勝ち、高田先生に、せっかく勝ったのだから皆でどこかに宿泊しましょうと提案し、先生も気持ちよく、「よ～しゃ、天神の平野屋にしよう。ここはOBがやっている旅館だから」と言っていたき、次の日は決勝戦というのに皆で遅くまで語り合った記憶があります。そのせいか決勝戦では敗れたと思います。ただ、私の現役時代でのベストゲームがこの試合であったと思います。その年の秋のシーズンはなかなか勝てなく皆落ち込んで情けない顔をしていても、「シケた顔するな」「一杯飲みに行くぞ」と言って励まされ一杯飲みながら野球談義をよくしたものです。しかし、よく考えてみると我々よりも先生の方がもっと情けないと思ったのではないかと今更ながら先生の優しい思いやりのあるお人柄がしのばれます。

この頃、高田先生と私と同期生の溝田君、柳沢君とあと2～3人で例によって中洲の居酒屋で飲んでいた時、仲間の一人が横着な態度をしたのか、何か失礼なことを言ったのかは良く覚えていませんが、先生が突然怒り出し、本気で顔を殴られたのを鮮明に覚えています。その時の先生の本当に怒った顔と真剣な目を見て、本当に自分の子供のように我々学生を思ってくれているのだなあをつくづく有難く思ったものです。

ゼミの選択をする時も私は経済学部で、高田ゼミは商学部であり私は高田ゼミに入ることはできませんでした。そこで私は将来何か商売をしたいので是非高田先生のゼミに入りたいと当時の経済学部長にお願いに行ったところ、そんなに入りたければ商学部長も了解であれば許すということで、めでたく高田ゼミの第一回生として入ることができました。ゼミの授業にもなかなか出席できないので先生から随分ご指導いただいたことを覚えています。確か最初のゼミ旅行は雲仙の国民休暇村（皆あまりお金がなかったので）に行って、皆でワイワイガヤガヤ酒を飲みながら騒いだものです。次の日は天草に泊まったような気がします。

先生の著書の発刊記念パーティーと高田ゼミ「創立10周年記念パーティー」の時の高田先生と奥様、お母様の嬉しそうな顔が思い出されます。「若駒会」のスタートから10周年までリードしていただいたのも全て先生であり、我々も若かったせいかなかなか幹事会にも出席できないなかで、OB、OG

をうまくリードしていただき今の「若駒会」も育ってきました。初代の会長から現在の竹森会長まで歴代の会長の思いは高田先生、いや駒先生が喜んでくれればとの思いで会の世話役を引き受けたのではないのでしょうか。また、そんな会の運営を常に支えてくれたのがOBの小林明人君、坂井啓君で、この場をお借りして心よりお礼を申し上げたいと思います。高田先生がお元気な頃は年に何回かお会いして、酒を飲んだり、ゴルフに行ったりで、楽しいことばかり思い出されます。ゴルフもサウスポー、独特なスイングでスライスボールが持ち球で、マナーにも厳しい方でしたが本当に楽しいゴルフでした。

ご子息の信幸君とは同じ会社で仕事をしており、これも高田先生との縁ではないかと思っております。ご子息を見る度に高田先生の顔を思い出すこともたびたびあります。

先生との思い出は沢山ありましたが、良い思い出ばかりで若駒会OB、OGの皆さんも同じ思いではないでしょうか。先生の遺志を尊重し、我々が元気の限り若駒会を大事にし、先生を思いながら大いに語り合い、またお互いに助け合いながら今後とも若駒会を存続・成長させていきたいと考えております。今後の皆様の協力と竹森会長とそれを支える小林君、坂井君には是非頑張ってくださいたく存じます。